

平成23年行政事業レビューシート

(文部科学省)

事業名	大学病院人材養成機能強化事業	担当部局庁	高等教育局	作成責任者				
事業開始・終了(予定)年度	事業開始:平成20年度 事業終了(予定):平成26年度	担当課室	医学教育課大学病院支援室	大学病院支援室長 玉上 晃				
会計区分	一般会計	施策名	IV-1 大学などにおける教育研究の質の向上					
根拠法令 (具体的な条項も記載)	—	関係する計画、通知等	・大学病院の周産期医療体制整備計画 (平成20年12月5日文部科学大臣発表) ・医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進について (平成22年4月30日 厚生労働省医政局長通知)					
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	現在、深刻な医師不足問題や周産期の医療提供体制の構築は、喫緊の課題となっている。 国民が安心・安全な医療を享受できる環境を確保し、医療の高度化等に対応していくため、我が国全体の医療専門職(医師、看護師等)を養成するための教育体制の充実を図る。							
事業概要 (5行程度以内。別添可)	大学病院において、次の①～③の事業を実施する。(補助率:定額補助) ①大学病院間の相互連携による優れた専門医等の養成 複数の大学病院が連携・協力し、それぞれの得意分野による相互補完を図り、各病院を循環しながら修練や幅広い経験を積むことが出来る医師キャリア形成システムを構築するとともに、大学病院の若手医師に多様なキャリアパスを明確に示すことにより、若手医師が将来に希望を持ちながら安心して研修に専念でき、国民の要請に応えられる質の高い専門医や臨床研究者の養成に資する。 ②周産期医療に関わる専門的スタッフの養成 産科・小児科などの医師不足を背景にした喫緊の課題である周産期医療に関わる専門的スタッフを養成する事業など、国公私立大学病院における取組を支援し、優れた専門医等の豊富な知識・技術を有する人材の養成を図る。 ③看護師の人材養成システムの確立 大学病院看護部と自大学看護学部・看護学科等が連携して、体系立てられた臨床研修方法や体制等を学問的検討行って開発し、臨床の看護職及び基礎教育課程の教育レベルを向上させることにより、効率的・継続的な専門能力の習得と向上が図られ、安心・安全な看護提供体制を構築する。							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 業務委託等 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他							
予算額・執行額 (単位:百万円)		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度要求		
	予算 の 状 況	当初予算	1,504	2,364	2,587	2,300	2,077	
		補正予算	0	0	0	0		
		繰越し等	0	0	-3	3		
		計	1,504	2,364	2,585	2,303	2,077	
	執行額	1,493	2,261	2,557				
執行率(%)	99.3%	95.6%	98.9%					
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	成果指標			単位	20年度	21年度	22年度	目標値 (23年度)
	大学病院間の相互連携による優れた専門医等の養成人数	成果実績	人	3,209	7,279	7,427	7,350	
		達成度※1	%	97%(3,325)	104%(7,000)	101%(7,350)		
	周産期医療に関わる専門スタッフの養成人数	成果実績	人	—	68	248	90	
		達成度※1	%	—	179%(38)	299%(83)		
看護職教育指導者の養成人数	成果実績	人	—	8	87	96		
	達成度※1	%	—	25%(32)	109%(80)			
活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込
	プログラム実施数		活動実績 (当初見込み)	件	19	44	51 (51)	(51)
単位当たり コスト	50(百万円/1大学)		算出根拠	単位当たりコスト =22年度執行額(事務費除く)(2,553百万円)/プログラム実施数(51大学)				
平成 23 ・ 24 年度 予算 内訳	費目	23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由				
	大学改革推進等補助金	2,294百万円	2,073百万円	※対象経費(補助単価)の見直しによる減				
	大学改革推進等補助金事務費	6百万円	4百万円					
計	2,300百万円	2,077百万円						

事業所管部局による点検			
	評価	項目	特記事項
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
	—	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、費目・用途	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	
	○	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	—	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか	
	○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	<p>・本事業により、複数の大学病院が連携し、得意分野の相互補完を図ることで、質の高い専門医や、周産期医療に関わる専門的スタッフの養成を行うとともに、看護師の専門能力向上により、国民が安心できる医療提供体制の構築が図られている。</p> <p>・経費の執行に関しては、事業年度毎に各大学から提出される実績報告書等において、支出先・用途を把握し、補助金の使用状況や事業目的との整合性について確認を行っている。</p> <p>・なお、大学病院の多種多様な医療スタッフの専門性の向上や業務の分担を図るため、大学病院職員の資質向上が課題となっており、平成23年度においては、同規模の予算内で、チーム医療を支える大学病院職員の人材養成に取り組むこととしている。</p>		
予算監視・効率化チームの所見			
一部改善	<p>1. 事業評価の観点：この事業は、①大学病院と地域の複数の医療機関がそれぞれの得意分野を活かしながら、連携して若手医師の教育・研修を行うことにより、高度な治療ができる専門医や臨床研究者を育て、国民に質の高い医療を提供することを目的②地域医療の「最後の砦」である大学病院の人材養成機能や病床整備など、受け入れ体制を強化することを目的③大学病院と自大学看護学部等が連携して、効果的な臨床研修の方法や体制を開発し、看護職や看護学生が効率的・継続的に専門能力の習得と向上を図れる教育体制を整備することを目的とした国公立大学に対する補助事業であり、予算措置手法・実施体制の観点から検証を行う。</p> <p>2. 所見：本事業については、昨年度のレビューを踏まえ、予算の縮減を図ったところであるが、引き続き事業内容を精査し、事業の重点化・効率化に努め、予算の見直しを図るべきである。</p>		
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
<p>予算監視・効率化チームの所見を踏まえ、事業内容を精査することで補助単価等を見直し、概算要求に▲223百万円反映した。</p>			
補記（過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載）			
<p>※1 ()内は各年度における目標値であり、達成度(%)は各年度の目標値に対する率を記載。</p> <p>◆大学病院間の相互連携による優れた専門医等の養成の取組状況 http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/igaku/1296601.htm</p> <p>◆周産期医療に関わる専門的スタッフの養成の取組状況 http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/igaku/1292525.htm</p> <p>◆看護師の人材養成システムの確立選定大学の取組状況 http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/igaku/1296591.htm</p> <p>平成23年度からは、多種多様な医療スタッフが、各々の高い専門性を前提に、目的と情報を共有し、業務を分担するとともに互いに連携・補完し合い、患者の状況に的確に対応した医療を提供するために「チーム医療推進のための大学病院職員の人材養成システムの確立」事業を新たに開始する。</p>			

文部科学省
2,557百万円

諸謝金
旅費

2百万円
3百万円

を含む

対象大学から申請のあった事業内容を
審査の上、支援対象とする取組を選定し、
補助金を交付する。

【公募・補助】

大学病院間の相互連
携による優れた専門
医等の養成

A. 大学(全21件)
1,557百万円

複数の大学病院等が連携して相互に補い合いながら、充実した研修プログラムを実施することで、若手医師に高度な診療技術や専門知識を身につけさせる。

【公募・補助】

周産期医療に関わる
専門的スタッフの養成

B. 大学(全18件)
696百万円

若手医師の教育や休業中の女性医師の復帰支援を行い、周産期医療に関わる医師数を増加させる。

【公募・補助】

看護師の人材養成
システムの確立

C. 大学(全12件)
300百万円

看護実践教育において効果のある教育プログラムや教育研修体制を開発し、看護師の実践能力の向上を図る。

資金の流れ
(資金の受け
取り先が何を
行っているか
について補足
する)(単位:
百万円)

※平成23年度からは、「チーム医療推進のための大学病院職員の人材養成システムの確立」事業を新たに追加して実施予定。

※四捨五入の関係で計数が一致しない。

A.北海道大学			E.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
人件費	専任教員雇用経費、シンポジウム講師謝金等	66			
旅費	シンポジウム講師旅費、研修医の研修参加旅費等	11			
消耗品費	スキルスラボ用消耗品購入費	6			
設備備品費	挿管法実習人形、注射訓練模型、心拍動下冠動脈バイパス手術訓練装置、トレーニング用胸腔鏡セット、新生児気管挿管シミュレーター	5			
その他	会議費、講習会参加費、パンフレット印刷費	4			
計		92	計		0
B.東北大学			F.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
人件費	医師、臨床心理士等雇用経費、セミナー講師謝金等	42			
その他	フォーラム参加旅費、消耗品費等	3			
借料・損料	会議、講演会等会場費	1			
計		46	計		0
C.東北大学			G.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
人件費	教育担当看護師雇用経費、フォーラム講師謝金等	21			
その他	看護セミナー受講料、研修旅費等	3			
物品購入費	看護教育e-ラーニングシステム映像機器等	1			
計		25	計		0
D.			H.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)

「複数支出先ブロック」の支出先一覧(上位10機関)

A.大学病院間の相互連携による優れた専門医等の養成

※補助事業

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	北海道大学	自立した専門医を育むオール北海道プラス1	92	—	—
1	筑波大学	東関東・東京高度医療人養成ネットワーク	92	—	—
1	島根大学	山陰と阪神を結ぶ医療人養成プログラム	92	—	—
4	東京医科歯科大学	都会と地方の協調連携による高度医療人養成	90	—	—
5	名古屋大学	東海若手医師キャリア支援プログラム	87	—	—
5	京都大学	マグネット病院連携を基盤とした専門医養成	87	—	—
5	慶應義塾大学	地域躍動型専門医養成一貫教育プログラム	87	—	—
8	琉球大学	多極連携型専門医・臨床研究医育成事業	79	—	—
9	東北大学	東北高度医療人キャリアパス支援システム	77	—	—
9	新潟大学	NAR大学・地域連携[+α専門医]の養成	77	—	—
9	富山大学	地域発信・統合型専門医養成プログラム	77	—	—

B.周産期医療に関わる専門的スタッフの養成

※補助事業

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	東北大学	周産期医療若手・女性医師支援プロジェクト	46	—	—
2	徳島大学	魅力と働き甲斐の創生にによる周産期医療再生	40	—	—
3	大阪医科大学	高度周産期医療人養成推進プログラム	40	—	—
4	筑波大学	地域と大学の連携による周産期人材育成事業	40	—	—
4	富山大学	総合的周産期医療人育成プログラム	40	—	—
4	三重大学	マザーホスピタル構想による周産期医療再生	40	—	—
4	九州大学	周産期ゆりかごネットプロジェクト	40	—	—
4	横浜市立大学	不足するNICU病床の有効活用に向けて	40	—	—
4	昭和大学	キャリアパス支援型周産期医療環境整備	40	—	—
4	東京女子医科大学	男女共同参画型NICU人材養成プログラム	40	—	—
4	信州大学	周産期医療人材育成プロジェクト	40	—	—

C.看護師の人材養成システムの確立

※補助事業

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	東北大学	看護キャリアプロモート支援システム開発	25	—	—
1	東京医科歯科大学	看護職IKASHIKAキャリアパスの開発	25	—	—
1	新潟大学	‘気づく’を伸ばす臨床キャリア開発	25	—	—
1	滋賀医科大学	スーパーナース育成プラン	25	—	—
1	岡山大学	EBN志向の次世代看護職教育システム開発	25	—	—
1	九州大学	看護実践力 プロッサム開花プロジェクト	25	—	—
1	京都府立大学	循環型教育システムによる看護師育成プラン	25	—	—
1	慶應義塾大学	看護職キャリアシステム構築	25	—	—
1	名古屋大学	Saving life ナース育成プラン	25	—	—
1	神戸大学	キャリアシステム・神戸REEDプラン	25	—	—